

平成 28 年(2016 年)9 月 20 日

豊中市長

浅利 敬一郎 様

豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会

会長 高橋 一夫

**豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の
進捗状況の検証等について（答申）**

平成 28 年(2016 年)7 月 4 日に本委員会に諮問された、豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況の検証等について、審議結果を別紙のとおり答申します。

平成28年度(2016年度)
**豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略
の進捗状況の検証等について**

(答 申)

平成 28 年(2016 年)9 月
豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会

目次

I. 答申にあたって	1
II. 審議結果	2
1. 豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況の検証について	
2. 豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の具体的施策への意見について	
III. 審議経過	3
IV. 審議会委員	3

Ⅰ. 答申にあたって

これまで増加していた国の人口は、平成 20 年（2008 年）をピークに減少へと転じ、今後急速に進んでいくものと見込まれています。このような中、国は、少子高齢化の進展に的確に対応し、人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたり活力ある日本社会を維持していくために「まち・ひと・しごと創生法」を制定しました。この法律に基づき、国は、平成 72 年（2060 年）に 1 億人程度の人口を確保する「長期ビジョン」と、平成 27 年度（2015 年度）から 5 年間の取組みを示した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定されました。

豊中市においては、昭和 62 年（1987 年）の約 41 万 7 千人をピークに、人口は減少へと転じていましたが、千里ニュータウンの建替え等により平成 17 年（2005 年）から微増傾向となっています。しかし、国全体での少子高齢化の進展により、長期的に見ると人口は減少に転じていくものと思われま

す。豊中市では、人口減少に歯止めをかけ平成 52 年（2040 年）に 38 万人の将来人口を展望した「豊中市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（以下「豊中市人口ビジョン」という。）」と、平成 27 年度（2015 年度）から 5 年間の取組みを示した「豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「豊中市総合戦略」という。）」を平成 27 年（2015 年）10 月に策定されました。

策定からこの間、豊中市は、国からの交付金等も活用しながら、豊中市総合戦略を推進されているが、その進捗について、妥当性を図り、多角的な視点から効果検証を行うため、平成 28 年（2016 年）6 月に「豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会（以下「委員会」という。）」を設置しました。

委員会では、本年 7 月 4 日に「豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況の検証について」と「豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の具体的施策への意見について」の諮問を市長から受け、2 回にかけて審議を行いました。

委員会を構成する学識経験者や商工業・金融業・報道業・労働者の代表、市民と、それぞれの立場から様々な意見を答申としてまとめていますので、今後、施策に活用し、着実に取組みを進められることを望んでいます。

平成 28 年(2016 年) 9 月 20 日
豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会
会長 高橋 一夫

II. 審議結果

1. 豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況の検証について

(1) 豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

基本目標と具体的施策のK P Iの実績値から、目標達成に向け概ね順調に進んでいる。

豊中市総合戦略の策定から初めての評価となり、施策の進捗状況について、経年比較での問題点を提起することはできないが、目標達成に向け、K P Iの実績値の根拠となる要因の分析を進めていただきたい。

また、都市魅力を高める施策の推進を通して、まちに愛着をもっていただけるよう、取組みを進めていただきたい。

(2) 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(地方創生先行型)に係る事業実施結果について

地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金を活用し平成27年度(2015年度)に取り組んだ事業は、K P Iの実績値から「豊中市総合戦略」のK P I達成に有効的であった。

2. 豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の具体的施策への意見について

平成28年度(2016年度)は、豊中市総合戦略の具体的施策の中で、今後特にまちの変化が想定される南部地域について、審議を行った。

本委員会の意見としては、南部地域の人口減少に歯止めをかけるためには、子育て世帯をはじめとして、誰もが住みやすいまちの具体的なイメージを市民と共有することがまずは必要と考える。

また、学校再編や学校跡地の活用、南部コラボ構想の実現化、住環境整備といった取り組みに加え、新たな取り組みについては、多彩な人材や誇れる社会資源、交通の利便性、これまで培ってきたコミュニティ力といったポテンシャルを新たな活力や魅力につなげられるよう、既存の枠組みにとらわれず、多様な視点から検討を進められたい。

III. 審議経過

◆ 豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会

回	開催日程	内 容
第1回	平成28年(2016年) 7月4日(月)	豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況の検証等の諮問 (1) 総合戦略の進捗状況の検証について (2) 総合戦略の具体的施策への意見について
第2回	9月7日(水)	答申案について

IV. 審議会委員

◆ 豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会委員

会長◎・職務代理者○ (区分順・敬称略)

	区分	所属等	名前
1	学識経験者	近畿大学経営学部 教授	◎ 高橋 一夫
2		甲南大学経済学部 教授	○ 石川 路子
3		流通科学大学人間社会学部観光学科 准教授	山下 香
4	商工業団体の代表	豊中商工会議所 副会頭	吉村 直樹
5	金融業の代表	三井住友銀行公務法人営業第二部 副部長	水垣 学
6	報道業の代表	株式会社毎日放送アナウンサー室 アナウンス部 マネージャー	古川 圭子
7	労働者の代表	連合大阪豊中地区協議会 議長	勝 正雄
8	市民		畑中 啓司